vinetur

Cibus Tec、4カ国5カ所を巡るアフリカ貿易ミッションを完了

モザンビークとジンバブエでの最終会合が、サハラ以南市場への食品加工技術売り込みに向けたイタリアの取り組みを締めくくった。

2026年9月22日（火）



イタリアの食品加工技術企業とサハラ以南アフリカのパートナーを結び付けることを目的とした一連の貿易ミッション「Cibus Tec for Africa」プログラムは、9月14日と15日のモザンビーク・マプト、17日と18日のジンバブエ・ハラレでの最終訪問を経て、今月終了した。

この取り組みは、パルマで開催される食品・飲料技術の見本市Cibus Tecと、Renzo Piraccinが調整するネットワーク「Italian Agrifood Technology for Africa」によって推進された。同ネットワークは、サハラ以南市場での拡大を目指すイタリア企業を結集している。主催者によると、このプロジェクトは、加工能力の向上、品質改善、サプライチェーンの強化を目指すアフリカの食品・農業関係者に、イタリアの設備、生産システム、技術ノウハウを紹介するために組まれた。

月曜日にミラノで公表された情報によると、ミッションにはそれ以前のセネガルのダカールとサン・ルイ、ケニアのナイロビへの訪問も含まれていた。合わせると、プログラムは4カ国5カ所を巡った

ことになる。各地での形式はほぼ同じで、イタリア企業によるプレゼンテーション、現地企業や機関との商談、そして生産拠点や農業施設の視察が行われた。目的は、イタリアのメーカーが現地需要と直接接点を持つ一方で、アフリカ側の事業者が、加工、包装、生産効率に関する具体的な技術を評価できるようにすることだった。

このプロジェクトは、現地事務所を通じたICEとして知られるイタリア貿易庁、ならびにイタリア外務省と関係するイタリア大使館の支援を受けた。主催者は、こうした制度面の支援が、現地政府、経済団体、開発機関との会合を確保するうえで重要だったと述べた。

モザンビークのマプトでのイベントには、企業代表や公的関係者を含む農食品分野の関係者約80人が集まった。この会合は、マプトのICE事務所とモザンビーク・イタリア商工会議所の支援を受けた。出席者には、モザンビークのロベルト・ミト・アルビノ農業相、ガブリエレ・アンニス駐モザンビーク・イタリア大使、マプトのイタリア開発協力庁のファビオ・ストリナーティ所長が含まれていた。また、国連食糧農業機関、国際農業開発基金、世界銀行、アフリカ開発銀行、そしてモザンビークの投資・輸出促進機関APIEXの代表も参加した。

マプトでの参加者数は、人口増加、都市部の需要、インフラ不足、収穫後ロスに直面するなか、食品生産・加工技術への幅広い関心を示した。イタリアの供給企業は、保存期間の延長、廃棄削減、生産性向上、より一貫した食品安全基準の支援につながる機械への需要拡大を見込み、これらの市場を狙っている。

主催者によると、ハラレで行われたジンバブエ・ミッションには、企業・機関の関係者40人超が参加した。これは、ジンバブエ産業連盟、ZimTrade、農業・農村開発庁、ジンバブエ投資開発庁との協力のもと、ジンバブエ駐在のジュゼッペ・ジャカローネ大使率いるイタリア大使館の支援を受けて実施された。視察の中心的な日程の一つは、ハラレ近郊の大規模農業企業モンゴメリー・ファームへの訪問で、イタリア側参加者は現地事業者と会い、市場で有用となり得る機械やシステムの種類や生産ニーズについて協議した。

主催者は、このアフリカ・ロードショーを商業的な取り組みであると同時に市場調査の機会でもあると位置づけた。サハラ以南アフリカの食料システムは、人口増加、都市部の需要、インフラの不足、収穫後損失による圧力を受けている。その結果、保管期間を延ばし、農場により近い場所での加工を支え、現地サプライチェーンの信頼性を高める技術への関心が生まれている。同分野のイタリア企業は、こうした状況に商機を見いだしており、特にプラントエンジニアリング、包装、品質管理、工業加工の分野でそれが顕著だ。

アフリカ・プログラムの終了は、10月27日から30日までパルマで開催予定の第54回Cibus Tecの数週間前にあたる。主催者によると、2026年のイベントでも国際的な要素が中心的役割を担う。出展する海外企業やブランドは、展示会全体の30％超を占める見込みだ。予定されているバイヤーは3,000人超で、そのうち300人超が20のアフリカ諸国から来ると見込まれている。

今年のCibus Tecは、革新とラボ分析技術に焦点を当てた第2回Labotecと同時開催される。主催者は、共同開催が食品・飲料生産における試験、計測、科学分析の役割拡大を反映していると説明した。また、今回の開催から両見本市の入場を無料とし、業界関係者の参加拡大を図るとした。登録はすでにイベントのウェブサイトで受け付けを開始している。

Cibus Tecは、KoelnmesseとFiere di Parmaの合弁会社Koeln Parma Exhibitionsが主催する。アフリカ向けミッションにより、パルマのイベントは、食品生産技術の将来成長にとって主催者がますます重要だとみなす市場と直接つながった。特に、アフリカ企業や公的機関が加工能力の近代化と、より強固なアグリビジネスのバリューチェーン構築を支える外部パートナーを求めているなかで、その意義は大きい。